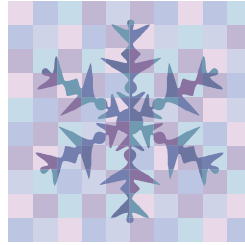


12月 全校朝礼



2013. 12. 11 (水)

おはようございます。

先週の水曜日のことです。高校の先生がいらして、帰り際に「きょう校舎に入って、階段をあがってきたら、生徒の方から「こんにちは。」って言ってくれてね。僕は何十年も前だけど九中にいたから、余計に嬉しかったですよ。九中生はいいねえ。」とおっしゃいました。

その日の夕方、私が千里中央のエスカレーターを降りていた時のことです。後ろから女の子が3人、「校長先生、こんにちは。」と笑顔で声をかけてくれました。私服を着て、ちょっと大人っぽく見えたので一瞬、えっ？卒業生？と思いましたが、すぐに2年生の3人だとわかりました。

二言三言話して、たったそれだけのことでしたが、そのあと、モノレールに乗っても、阪急電車に乗っても、そして能勢電車にも乗るのですが、家に帰るまでずっと、何となく嬉しくて、気持ちがほっこりしていました。

ほんとに「こんにちは」って何気ない言葉ですが、それをためらわずに素直に、言葉に出してくれたことで、相手に、その気持ちがずっと伝わりました。

同じように何気ない言葉に「ありがとう」があります。

みなさんは一日に何回「ありがとう」って言いますか？

先月、「伝えよう！いのちのつながり」～ありがとうを伝えたい人へ～というエッセイコンクールの表彰式に行きました。なんと、応募総数4131点の中から30点選ばれ、その内、九中1年生の2名が豊中市教育長賞と佳作に入選しました。

二人とも素晴らしい作品だったので、ちょっと紹介します。

お母さんへ

お母さん、ありがとう。

母は毎朝、出勤前の父の姿が見えなくなるまで、手を振ります。そして母は、父と家を出る時間のちがう私にも、手を振ってくれます。時には、けんかをして、おたがい口をきかない朝もあります。

そんな朝は、歩きながら母の方をふり返るとき、不安で少しこわいです。なぜなら、もしかしたら母が、いつもの場所にいないかもしれないと思うからです。でも、そんな時でも母は、変わらず手を振ってくれていました。

母が毎日手を振る理由は、「元気に帰ってきてね。」という思いからだそうです。私はそのことを知り、改めて大事にされているのだと感じました。これからは、その思いに感謝しながら、過ごしていかなければいけないと思います。お母さん・・・ありがとう。

望乃より

5. 6年生の時担任だった 芦分先生へ

ぼくは、芦分先生に出会えて、本当によかったと思っています。
なぜかという、実は、4年生の時にクラスがすごくあれていて、そのくさった根性を叩き直してくれたのが、芦分先生だったからです。

芦分先生に出会ってから、ぼくは別人のようになりました。宿題もさぼらず、しっかりやるようになったし、手を挙げて、自分の意見をちゃんと言うようになりました。

しかも、芦分先生は、休み時間になると一緒に遊んでくれる、とてもやさしい先生でした。ぼくにとって、最高の先生と言ってもいいぐらいです。そんな先生に出会えて、すごく感謝しているし、芦分先生に、ありがとうございますと言いたいです。

宏嘉 より

いろんな「ありがとう」がありますね。まず「ありがとう」という気持ちに気付くことが大切だと思います。どんな些細なことでも相手が自分のためにしてくれている、ということに気付く。やってもらって当たり前としか思えなかったら「ありがとう」の言葉は絶対に出てきません。

「思っている、言えないんだよな」と言う人もあるでしょう。でも、さっきも言ったように言葉に出せば、ストレートに気持ちが伝わります。逆に、言葉に出さないと意外と気持ちは伝わらないものです。

「ありがとう」と言うことに、慣れてください。

ちょっとしたことでもありがとうと言われると嬉しいですね。逆に相手のためにと思ってしたことに対して、「ありがとう」と言ってもらえないと、ちょっとさびしい気持ちになります。だから、どんな時もずっと、笑顔で「ありがとう」の言葉が出てくる人になりたいものです。

そして、「ありがとう」を言うことに慣れてきたら、ありがとうに一言添えてみましょう。

「きょうのお弁当おいしかった、ありがとう。」「助けてもらってうれしかった、ありがとう。」「きのうはどうもありがとう。」「教えてくれてありがとう。」さあ皆さん、今日一日あなたは何回、「ありがとう」が言えるでしょう。

最後に、わたしの話をしっかり聞いてくれて、皆さん、ありがとう。

